

## 第1回 但馬空港の利活用検討会議 議事要旨

- 1 開催日時 平成26年8月26日(火) 10:00~12:00
- 2 開催場所 但馬空港ターミナルビル2階中会議室
- 3 出席構成員(敬称略、五十音順)
  - 岩見 宣治(東京空港冷暖房㈱ 副社長)
  - 上村 敏之(関西学院大学経済学部 教授)
  - 柏木 千春(流通科学大学サービス産業学部 教授)
  - 神田 武(但馬地域商工会振興協議会 会長)
  - 黒田 勝彦((財)関空調査会 理事長)
  - 田中 稔(但馬空港ターミナル㈱ 代表取締役社長)
  - 中貝 宗治(豊岡市長)
  - 西岡 安雄(但馬区長会連合会 会長)
  - ひうら さとる(漫画家)
  - 本田 俊介(日本航空㈱国内路線事業本部 国内路線事業部長)
  - 前林 保典(京丹後市 副市長) ※中山泰(京丹後市長) 代理
  - 宮垣 和生(豊岡商工会議所 会頭)

## 4 議事

## (1) 現地視察

検討会議に先立ち、但馬空港の現地視察を行った。

## (2) 開催要綱・検討会議開催スケジュール

県土整備部県土企画局空港政策課から説明を行った。

## (3) 座長の選任

構成員の互選により、座長には(財)関空調査会理事長の黒田勝彦構成員が選任された。

## (4) 座長代理の指名

黒田勝彦座長から東京空港冷暖房㈱副社長の岩見宣治構成員が座長代理に指名された。

## (5) 会議の公開・非公開の別 公開

## (6) 資料説明

県土整備部県土企画局空港政策課から、以下の内容について説明を行った。

①但馬空港の概要、現状

②検討の視点

## (7) 意見交換 下記5「主な意見・質問」を参照

## 5 主な質問・意見の概要

### 質 問

質 問	回答（空港政策課）
<b>&lt;但馬空港の概要&gt;</b>	
資料-5. p7「但馬空港の背後圏の概要」において、新温泉町が参考として記載されており、背後圏から除外されているのはなぜか。	但馬-首都圏間流動の観点から考えると、新温泉町からは、鳥取空港の方が但馬空港に比べて距離的に近いため、新温泉町の住民の多くは鳥取空港を利用すると想定し、参考記載としている。なお、但馬-伊丹便については、新温泉町も背後圏に含むものと考えている。
<b>&lt;但馬空港の現状（1）空港の利用状況&gt;</b>	
資料-5. p19「発着回数」のH14年“パイロット養成会社が拠点を他へ移動”となっているが、どのような会社で、他へ移転した理由はなぜか。	会社は、小型航空機のパイロット養成会社。冬季において、積雪により訓練が困難なため、他空港へ移転した。
<b>&lt;但馬空港の現状（2）空港をとりまく環境&gt;</b>	
資料-5. p24「首都圏との流動」の航空分担率24%の根拠は。	H22年度全国幹線旅客純流動調査結果に基づき、但馬・京丹後地域と首都圏の旅客流動のうち、但馬空港、伊丹空港、鳥取空港、神戸空港を利用する航空利用者の合計（3.6万人）を航空・鉄道の旅客流動（15.4万人）で除した率。
<b>&lt;但馬空港の現状（3）運営状況&gt;</b>	
資料-5. p32「空港の一体的な運営」による、経費削減効果は。	5年間で計約4,200万円の人件費が削減されると試算している。
<b>&lt;その他&gt;</b>	
但馬空港周辺の観光協会等が旅行業登録を行い地域の旅行商品を開発することが可能か否か。	調べて回答させていただく。
予定している住民、企業アンケートは、ビジネス利用者を想定しているのか。また、どこの地域を対象とするのか。	ビジネス、観光を問わず但馬地域を対象に実施する予定。方法については、今後検討する。
但馬空港周辺について、騒音問題はあるのか。	開港以来、定期便について地元から騒音に関する苦情は特に聞いていない。
但馬空港から関西国際空港への就航は、現在但馬-伊丹路線に就航しているサブ機で可能か。	物理的には可能。

## 意見

### <但馬空港の現状（１）空港の利用状況>

- 但馬地域と関西国際空港とのつながりを考えるには、資料-5. p18 の但馬-伊丹路線の定期利用者へのアンケート調査結果について、居住地が関西地域のどの地域となっているか等詳細な分析が必要。
- 毎年 2 回実施している但馬-伊丹路線の定期利用者へのアンケートについて利用者特性の経年変化をとりまとめることが必要。

### <但馬空港の現状（２）空港をとりまく環境>

- 山陰近畿自動車道の開通により、但馬空港に直近の鳥取空港の背後圏が広がり、但馬空港にとっては、利用者が鳥取空港と重なる可能性がある。よって、羽田直行便の検討においては、鳥取空港へのアクセス道路の変化をきちんと踏まえることが必要。

### <その他>

- 運航事業者の保有機材や機材更新の状況を、検討資料としてとりまとめるべき。
- 但馬地域は首都圏からみると、あまり知られていない。しかし、このことが大きなチャンスだと感じている。
- 需要より先に滑走路の延伸を行うことは、現実的ではない。まず、但馬-首都圏間流動の需要の大きさを示すことが必要。

【以上】